

【基準 I 建学の精神と教育の効果】**(a) 基準 I の自己点検・評価の要約を記述する。**

本学園の創始者である加藤廣吉・せむ夫妻が掲げた建学の精神に基づき、各学科の教育目的・目標を「金城大学短期大学部学則（以下、「学則」という。）」に定めている。また、これらに基づいて学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）ならびに入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を明確に定め、本学ホームページ等で学内外に表明している。加えて毎年、学園案内冊子を発刊する際、これらの内容を確認・点検している。

教育目的は「学則」に明確に定め、各種方法を用いて学内外に表明し、「専任教員と非常勤講師の懇談会」等を通じて毎年点検を行っている。学習成果は、通常の成績評価のほか、教員と学生が「学習評価シート」に基づく面談を通じ、相互に確認する仕組みを有している。また、学習成果を学内外に表明する機会として、学生がそれぞれの最終成果物を発表する場を有している。ここでは外部評価も得られており、学習成果の点検の場としても機能している。これらの確認・点検を通じて、また学生による「授業に関するアンケート」の結果を活用しながら学習成果の分析・評価を行い、PDCA サイクルを用いて査定を実施し、教育の質の保証を図っている。

そのほか、教育の効果をより高める目的で、「自己点検・評価室」が主体となり、各種アンケート調査などの自己点検・評価活動に取り組んでいる。特に Faculty Development（以下、「FD」という。）研修会を充実させており、全学的な教育力向上のための取組を推進している。

(b) 基準 I の自己点検・評価に基づく行動計画を記述する。

建学の精神・教育理念、教育目的、学習成果等の浸透を図るため、これらの文言を記載した資料や配付物をより見やすくデザインし、アンケート等を通じて理解度の確認も行う。また、教育の効果を高めるため、学習成果の査定手法を各学科で精査・確立し、PDCA サイクル化を徹底していく。さらに、全学的な体制を推進するために、非常勤講師の自己点検・評価活動への参加を促す。